

多摩地域自治体における ごみ対策の概況と今後の課題

目次

多摩地域自治体におけるごみ対策の概況と今後の課題	1
資料 1 全国自治体における 3R の取り組みベスト 10	3
資料 2 ごみ処理手数料と 1 人 1 日当たりごみ排出量	4
資料 3 施策別 1 人 1 日当たり資源化量と主要資源物の分別収集状況	5
資料 4 ごみ処理手数料の値上げ	6
資料 5 多摩地域 6 自治体のごみの組成	8

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員

小野寺 勲

2026 年 1 月 21 日（水） 三多摩議員ネット研修会

多摩地域自治体におけるごみ対策の概況と今後の課題

■ごみ減量・資源化のトップランナー（資料 1）

多摩地域の自治体は、全国の人口 10 万人以上 50 万人未満の自治体における 2023 年度の 1 人 1 日当たりごみ排出量ベスト 10 に 8 自治体、リサイクル率ベスト 10 に 5 自治体が入っており、多摩地域はごみ減量・資源化のトップランナーとなっています。

■自治体間の競争

その背景として、多摩地域には、自治体間のごみ減量・資源化の競争を促す、次のような仕組みが存在し、さらなるごみ減量・資源化に取り組む動機づけとなっています。

●インセンティブ（アメとムチ）

25 市 1 町は、2006 年から東京たま広域資源循環組合のエコセメント化施設で、焼却灰をエコセメント化しています。各自治体の焼却灰のエコセメント化施設への搬入配分量は人口を基に割り当てられていて、搬入量がそれを上回った場合には超過金（1.5 万円/ t）を徴収され、下回った場合には貢献金が分配されます（超過金総額を貢献量に応じて配分）。

●取り組みの見える化

東京市町村自治調査会の『多摩地域ごみ実態調査』（毎年発行）によって、各自治体のごみ減量・資源化の取り組み成果が見える化されています。それについては、ごみ・環境ビジョン 21 も会誌『ごみっと・SUN』に、毎年、各自治体のごみ排出量・資源化率等の比較データを掲載し、多摩地域の全自治体に提供していて、一役買っています。

■自治体の取り組みにおける特徴

多摩地域自治体のごみ減量・資源化の取り組みには、次のような特徴があります。

●ごみ減量（資料 2）

全 30 自治体中、29 自治体が家庭ごみ有料化を実施。高水準のごみ処理手数料と戸別収集による資源物分別の可視化が大きなごみ減量効果をもたらしています。

●資源化（資料 3）

高水準のごみ処理手数料と戸別収集によって資源物の分別を促している一方、収集後資源化（焼却灰のエコセメント化、不燃ごみ・粗大ごみの資源化、焼却灰のスラグ化）や集団回収とともに、高い容器包装プラスチック分別収集実施率も資源化を押し上げています。

●埋立

25 市 1 町は焼却灰を全量エコセメント化しており、2018 年度から埋立ゼロ。1 市 3 町村（西秋川衛生組合）は、焼却灰の大部分をスラグ化する一方、一部を埋立。不燃残渣の埋立は 2016 年度からゼロ。

■今後の課題

多摩地域自治体は、可燃ごみをはじめ、不燃ごみ・粗大ごみから資源物を選別した残渣も焼却しており、多摩地域全体では総ごみ量の約 75% を焼却しています。カーボンニュートラルと資源循環に貢献するため、脱焼却に向けて、ごみ減量と資源化を強力に推進する必要があります。

●ごみ減量の推進

ごみ減量を促進する啓発を一層強化する一方、ごみ処理手数料の値上げを断行する必要があります。

★ ごみ減量の啓発強化

生ごみについては、食品ロス削減や生ごみ処理機器などによる自家処理、**プラスチックごみ**については、マイバッグ・マイボトルの持参、バラ売り・簡易包装の選択、使い捨て製品の使用削減、**その他のごみ**については、必要以上にものを買わない、長く使い続けるといった啓発を一層強化していく必要があります。

★ ごみ処理手数料の値上げ（資料 4）

今後のごみ減量対策においては、ごみ減量を促進する強力な手段である、ごみ処理手数料の値上げの実施が大きな課題です。

●資源化の推進（資料 5）

可燃ごみや不燃ごみに含まれている資源物の分別を徹底することを基本とするとともに、資源化可能物への分別収集対象の拡大に積極的に取り組んでいく必要があります。

★ 資源物分別の徹底

資源物の分別を徹底するためには、分別の徹底を強く訴えるメッセージを発信していく必要があります。

プラスチック類の分別については、汚れが落ちないもの以外は、ひと手間かけて汚れを取り除き（油は多少付いていても可）、できるだけ資源物として分別するようにする。

雑紙の分別については、汚れている紙と特殊な紙（禁忌品）を除き、雑紙は小さな紙片から小まめに分別する。なお、雑紙を資源物として排出する場合、一般的には、ひもでしばるか紙袋に入れて出すルールになっていますが、武蔵野市、小平市、国分寺市、武蔵村山市は、紙袋がない場合は、ビニール袋に入れて出してもよいルールにすることによって分別効果を発揮しています。

また、**資源物の分別を促す情報発信**においては、可燃ごみ・不燃ごみへの資源物の混入状況（資料 5 - 表 1・2）や資源物のゆくえを見える化することによって、資源物の分別の必要性を実感してもらうことも大切です。

★ 分別収集対象の拡大

生ごみをはじめ、廃食用油、紙おむつなど資源化可能物への分別収集対象拡大に積極的に取り組んでいく必要があります。なお、ごみ処理手数料の値上げは、分別収集対象拡大に必要な財源の確保にも役立てることができます。

【参考】人口 10 万人未満で、リサイクル率ベスト 10 の自治体では、ほとんどが生ごみを分別収集し、堆肥化やメタンガス化しており、徹底した資源物分別と相まってリサイクル率が 80% に達している自治体もあります（資料 1）。多摩地域自治体が目指すべき目標を示唆しています。

資料1 全国自治体における3Rの取り組みベスト10（2023年度）

出所：環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和5年度）について」

1人1日当たりのごみ排出量（集団回収を含む）

（単位：g/人日）

人口10万人未満			人口10万人以上50万人未満			人口50万人以上		
1. 長野県	南牧村	278.2	1. 東京都	日野市	585.6	1. 東京都	八王子市	698.4
2. 長野県	川上村	280.2	2. 静岡県	掛川市	595.0	2. 神奈川県	川崎市	729.5
3. 徳島県	神山町	364.7	3. 東京都	小金井市	595.2	3. 愛媛県	松山市	732.0
4. 長野県	泰阜村	407.6	4. 東京都	西東京市	626.1	4. 京都府	京都市	742.3
5. 宮崎県	高原町	415.6	5. 東京都	小平市	626.8	5. 埼玉県	川口市	749.4
6. 長野県	北相木村	425.0	6. 東京都	府中市	634.9	6. 神奈川県	横浜市	754.7
7. 長野県	下條村	428.7	7. 静岡県	藤枝市	636.9	7. 静岡県	浜松市	770.8
8. 長野県	中川村	430.4	8. 東京都	東村山市	638.0	8. 埼玉県	さいたま市	787.5
9. 北海道	更別村	437.5	9. 東京都	国分寺市	642.2	9. 広島県	広島市	791.3
10. 長野県	高森町	449.2	10. 東京都	三鷹市	649.7	10. 神奈川県	相模原市	795.4

リサイクル率（集団回収を含む）

（単位：％）

人口10万人未満			人口10万人以上50万人未満			人口50万人以上		
1. 鹿児島県	大崎町	83.0	1. 神奈川県	鎌倉市	58.5	1. 千葉県	千葉市	34.5
2. 北海道	豊浦町	81.5	2. 岡山県	倉敷市	47.3	2. 東京都	八王子市	28.0
3. 徳島県	上勝町	76.2	3. 東京都	国分寺市	44.9	3. 愛知県	名古屋市	26.4
4. 鹿児島県	志布志市	75.6	4. 東京都	小金井市	44.8	4. 福岡県	北九州市	25.0
5. 北海道	小平町	69.6	5. 埼玉県	加須市	37.5	5. 岡山県	岡山市	23.8
6. 長野県	木島平村	64.3	6. 愛知県	小牧市	36.9	6. 新潟県	新潟市	23.1
7. 福岡県	大木町	63.6	7. 東京都	東村山市	35.9	7. 神奈川県	横浜市	22.1
8. 鳥取県	日吉津村	53.4	8. 東京都	西東京市	33.6	8. 埼玉県	川口市	22.0
9. 北海道	羅臼町	51.3	9. 東京都	調布市	33.2	9. 埼玉県	さいたま市	20.7
10. 北海道	下川町	51.0	10. 神奈川県	横須賀市	32.3	10. 神奈川県	相模原市	20.2

※中間処理後再生利用量から固形燃料（RDF、RPF）、焼却灰・飛灰のセメント原料化、セメント等への直接投入、飛灰の山元還元された量を差し引き、リサイクル率を算出。

資料2 ごみ処理手数料と1人1日当たりごみ排出量(2024年度)

自治体名	ごみ処理手数料			1人1日当たりごみ排出量（g/人日）								総ごみ焼却率（％）	順位
	可燃・不燃ごみ （中袋・円／ℓ）	プラスチックごみ （中袋・円／ℓ）	事業系持込ごみ （円／kg）	総ごみ （集団回収を除く）	順位	内訳							
						家庭系ごみ	順位	事業系ごみ	順位	普通ごみ※	順位		
八王子市	1.9		35	667.4	20	550.7	20	116.7	19	520.6	19	76.6	21
立川市	2.0		40	654.9	17	493.4	2	161.5	29	490.2	14	70.9	6
武蔵野市	2.0		40	708.4	23	585.0	23	123.4	21	531.7	21	73.7	9
三鷹市	1.9		35	613.7	11	528.5	15	85.2	12	436.2	5	76.0	18
青梅市	1.5	0.8	30	722.8	24	581.1	22	141.7	27	581.6	25	79.0	24
府中市	2.0	1.0	42	582.8	4	482.3	1	100.5	17	441.2	6	75.2	15
昭島市	1.5	1.5	30	673.7	21	531.0	16	142.8	28	529.5	20	73.9	12
調布市	1.9		35	633.2	12	542.3	18	90.9	15	445.9	7	74.1	13
町田市	1.6	0.8	35	658.9	19	525.9	14	133.0	24	562.7	24	83.1	28
小金井市	2.0	2.0	42	569.3	2	518.4	11	50.9	5	394.7	2	54.0	1
小平市	2.0	1.0	40	602.4	8	545.5	19	56.9	6	458.5	10	73.3	8
日野市	2.0	2.0	42	565.1	1	505.2	5	59.9	8	401.1	3	70.3	5
東村山市	1.8	0.8	35	598.8	7	505.5	6	93.3	16	451.8	9	66.9	3
国分寺市	2.0	1.0	42	575.3	3	515.9	9	59.3	7	369.2	1	61.3	2
国立市	2.0	1.0	42	643.2	14	518.9	12	124.3	22	488.9	13	76.3	19
福生市	1.5		30	677.8	22	589.3	24	88.5	14	517.5	18	75.1	14
狛江市	2.0	2.0	42	605.9	9	533.8	17	72.1	10	449.7	8	72.7	7
東大和市	2.0	2.0	40	583.0	5	517.6	10	65.4	9	458.8	11	76.4	20
清瀬市	2.0	1.0	38	610.0	10	503.7	4	106.4	18	466.5	12	73.8	10
東久留米市	2.0	1.0	38	652.3	16	511.4	7	140.9	26	498.8	15	73.9	11
武蔵村山市	2.0	1.0	38	655.6	18	570.9	21	84.7	11	504.5	16	75.8	17
多摩市	1.5	0.5	35	644.1	15	513.3	8	130.7	23	532.3	22	81.5	26
稲城市	2.0	1.0	43	642.2	13	520.6	13	121.6	20	507.6	17	77.7	23
羽村市	1.5		30	726.1	25	592.1	25	134.0	25	545.3	23	75.3	16
あきる野市	1.5		40	736.0	26	703.3	27	32.7	4	613.3	26	83.1	29
西東京市	1.5	0.5	38	586.8	6	498.7	3	88.1	13	422.5	4	69.0	4
瑞穂町	1.5		30	854.9	28	652.2	26	202.7	30	671.6	27	77.6	22
日の出町	1.5		40	774.1	27	754.2	28	20.0	2	683.9	28	87.9	30
檜原村			40	1,010.9	30	981.2	30	29.7	3	841.0	30	83.0	27
奥多摩町	1.5		40	957.5	29	956.9	29	0.6	1	764.8	29	79.8	25
全体	29	18	30	638.3		534.2		104.1		488.7		74.8	

※普通ごみ＝総ごみ－資源ごみ＝可燃ごみ＋不燃ごみ＋粗大ごみ＋有害ごみ

資料3 施策別1人1日当たり資源化量と主要資源物の分別収集状況（2024年度）

自治体名	施策別1人1日当たり資源化量（g/人日）								主要資源物の分別収集状況※					
	総資源化量	順位	内訳						容器包装プラスチック	製品プラスチック	小型家電	金属類	剪定枝	生ごみ
			資源物からの資源化量	順位	収集後資源化量	順位	集団回収量	順位						
八王子市	230.9	20	141.3	17	66.1	12	23.6	21	●				●	●
立川市	264.9	5	152.1	12	84.2	3	28.6	14	●	●	▲		●	■
武蔵野市	272.0	3	173.5	3	63.6	17	34.9	9	●		▲		▲	
三鷹市	222.4	25	136.2	22	58.0	23	28.2	16	●	●	▲			
青梅市	251.9	9	134.9	23	68.5	10	48.5	6	●		▲		●	
府中市	232.2	18	127.5	25	61.6	21	43.2	7	●				●	
昭島市	253.8	8	136.7	21	95.0	2	22.2	22	●	●	▲			
調布市	239.5	13	144.5	14	64.6	15	30.4	12	●		▲		●	
町田市	220.2	26	94.6	29	76.4	6	49.2	5	●		▲	▲	■	
小金井市	280.6	2	173.2	4	82.4	4	25.0	18	●	●		●	●	●▲
小平市	231.4	19	143.9	16	65.5	14	22.0	23	●		▲	●	●	■
日野市	212.7	28	158.8	10	41.1	30	12.7	27	●	●	●	●	●	
東村山市	267.5	4	137.8	20	96.8	1	32.9	10	●		▲			
国分寺市	312.0	1	206.1	1	46.7	28	59.2	1	●		▲	▲	●	▲■
国立市	235.8	15	140.4	18	67.0	11	28.3	15	●		■		■	
福生市	241.6	12	160.3	8	54.5	25	26.8	17	●	●	●	●	●	
狛江市	234.3	16	156.3	11	57.0	24	21.1	24	●	●	▲	●	●	
東大和市	210.6	29	124.2	26	62.4	19	23.9	20	●		▲			
清瀬市	230.2	21	139.7	19	65.6	13	24.9	19	●		▲		●	
東久留米市	255.7	7	149.7	13	69.6	9	36.5	8	●		▲		●	
武蔵村山市	223.7	24	143.9	15	70.5	8	9.3	28	●		▲	●	●	
多摩市	233.7	17	111.7	28	71.6	7	50.4	4	●	●	●	●	▲	
稲城市	229.4	22	134.7	24	63.1	18	31.6	11	●	●	▲	●	■	
羽村市	249.4	11	164.0	6	64.5	16	20.9	25	●	●	▲	●	●	
あきる野市	212.7	27	118.0	27	44.2	29	50.5	3			●	●		
西東京市	250.8	10	160.2	9	60.7	22	29.9	13	●		●	●	●	●
瑞穂町	264.2	6	173.0	5	78.0	5	13.2	26	●		▲	●		
日の出町	191.7	30	86.7	30	48.9	27	56.1	2			●	●		
檜原村	225.1	23	162.8	7	62.3	20	0.0	29			■	■		
奥多摩町	239.2	14	185.5	2	53.8	26	0.0	29			■	■		
全体	240.1		140.7		67.0		32.3		26	10	27	17	21	6

※一般資源物（古紙・古着・古布、缶、びん、ペットボトル）以外の主要な資源物。

●戸別収集 ■集積所収集 ▲拠点収集（施設への持込を含む）

資料 4 ごみ処理手数料の値上げ

■ごみ処理手数料値上げの必要性

●ごみ処理経費増加への対応

多摩地域自治体全体では、建設改良費や委託費などのごみ処理経費が増加しているにもかかわらず、ほとんどの自治体は、ごみ処理手数料を導入以来据え置いてきました。ごみ処理経費の増加へ対応して、市民にも公平な負担を求め、ごみ処理手数料を値上げする必要があります。

●ごみ減量・資源化の推進

多摩地域全体では、総ごみ量の約 75%を焼却しており、焼却ごみがなかなか減らないのは、ごみ減量や資源化の取り組みが全般的に手詰まり状況となっていることに原因があります。こうした状況を打開するには、その原動力としてごみ処理手数料の値上げが不可欠です。

■ごみ処理手数料値上げの効果

●ごみ減量効果

多摩地域では、3 自治体のごみ処理手数料を値上げしており、そのうちの 1 自治体では、値上げをした 3 年後に値上げ前と比べて 1 人 1 日当たり可燃・不燃ごみ量が 16%減少しています。

●分別収集対象拡大に必要な財源の確保

分別収集対象の拡大は、以前から課題となっていながら実際にはあまり進展していないのは、主として、そのために必要な財源を確保できないことが壁になっているためです。ごみ処理手数料を値上げすることによって市の収入が増え、一定の財源が確保されます

■ごみ処理手数料の値上げ目標

ごみ処理手数料が高い程ごみ減量効果が大きいことから、ごみ処理手数料の値上げ率の目標は 50%以上が望ましい。

多摩地域での可燃・不燃ごみ用指定収集袋の最多価格は、現在、大袋（40ℓ入り）で 1 枚当たり 80 円ですが、50%値上げした場合は 120 円になります。値上げ後の価格は、現在、全国での最高水準価格である、北海道の帯広市など 6 市の価格に並びます。

ただし、プラスチックごみ用指定収集袋の最多価格は、この価格のほぼ半額です。

可燃・不燃ごみ用指定収集袋を 50%値上げした場合

大きさ	容量	最多価格（1 枚当たり）	値上げ幅
大袋	40ℓ	80 円→120 円	40 円
中袋	20ℓ	40 円→60 円	20 円
小袋	10ℓ	20 円→30 円	10 円
ミニ袋	5ℓ	10 円→15 円	5 円

■ごみ処理手数料値上げの影響

●値上げによる市民の負担増加額

1世帯当たりの1ヵ月のごみ処理手数料負担額は、最多価格の指定収集袋が平均的な使い方をされるところとした場合、現在は440円ですが、50%値上げすると660円になり、月に220円、年に2,640円負担が増えることになります。

1世帯当たりの1ヵ月のごみ処理手数料負担額

指定収集袋の種類	現在	50%値上げした場合
可燃ごみ用	中袋 40 円×週 2 回×4 週=320 円	中袋 60 円×週 2 回×4 週=480 円
不燃ごみ用	小袋 20 円×月 2 回=40 円	小袋 30 円×月 2 回=60 円
プラスチックごみ用	中袋 20 円×週 1 回×4 週=80 円	中袋 30 円×週 1 回×4 週=120 円
合計	440 円	660 円

●値上げによる自治体の収入増加額

ごみ処理手数料を50%値上げした場合の自治体の収入増加額を試算すると、容器包装プラスチックを分別収集していない市町村を除く25市1町では、最多価格の指定収集袋が平均的な使い方をされるところとした場合、1自治体当たり年に約2億円の増収が見込まれます。

1世帯当たり年 2,640 円×平均約 80,000 世帯＝1自治体当たり年 2億 1,120 万円
--

資料 5 多摩地域 6 自治体のごみの組成

さらなるごみ資源化を目指すきっかけとなるように、多摩地域 6 自治体の実施した詳細なごみ組成調査により、可燃ごみと不燃ごみへの資源物や資源化可能物の混入状況を見える化しました。

表 1 可燃ごみの組成(湿ベース・重量比)

(単位: %)

自治体名			武蔵野市	小金井市	小平市	東村山市	武蔵村山市	多摩市	平均
組成調査実施年度			2021	2019	2024	2019	2023	2023	
可燃性資源物	古紙	新聞・折込チラシ	1.1	2.3	0.0	0.9	0.2	1.5	1.0
		雑誌・書籍	0.7	0.9	0.6	1.2	0.3	0.4	0.7
		雑紙	3.8	7.4	5.9	5.1	2.0	7.5	5.3
		段ボール	0.2	1.0	0.3	0.4	0.2	1.4	0.6
		紙パック	1.1	0.5	0.3	0.6	0.4	0.9	0.6
		小計	6.9	12.1	7.1	8.2	3.1	11.7	8.2
	プラスチック類	ペットボトル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1
		容器包装プラスチック	2.8	9.8	6.9	1.0	7.1	17.7	7.6
		製品プラスチック	0.5	1.1	4.1	1.7	1.8	3.1	2.1
		小計	3.4	11.0	11.1	2.8	8.9	21.0	9.8
	古布		6.9	1.4	2.0	1.8	3.9	2.6	3.1
	剪定枝		0.2	0.5	0.9	0.5	0.0	0.5	0.4
	計		17.4	25.0	21.1	13.3	15.9	35.8	21.5
不燃性資源物	缶		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	びん		0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
	金属類		0.0	0.1	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2
	小型家電		0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	計		0.1	0.1	0.5	0.3	0.1	0.4	0.3
資源物計			17.5	25.1	21.6	13.6	16.0	36.1	21.8
資源化可能物	生ごみ		39.2	41.8	35.9	43.5	47.8	23.5	38.6
	紙おむつ		3.2	3.6	6.8	5.9	3.4	0.0	3.8
	靴・かばん・ベルト・ぬいぐるみ		0.9	0.1	0.0	0.0	2.1	1.4	0.8
	陶磁器		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ガラス類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計		43.3	45.5	42.7	49.4	53.3	24.9	43.2
資源化できない可燃ごみ			39.3	28.6	35.4	35.9	30.5	39.0	34.8
資源化できない不燃ごみ			0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
有害ごみ・粗大ごみ・収集不適物			0.0	0.6	0.1	1.0	0.0	0.0	0.3

表2 不燃ごみの組成(湿ベース・重量比)

(単位: %)

自治体名			武蔵野市	小金井市	小平市	東村山市	武蔵村山市	多摩市	平均
組成調査実施年度			2021	2019	2024	2019	2023	2023	
可燃性資源物	古紙	新聞・折込チラシ	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
		雑誌・書籍	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
		雑紙	0.3	1.0	0.3	1.0	0.1	0.2	0.5
		段ボール	0.3	0.2	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1
		紙パック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		小計	0.6	1.3	0.3	1.3	0.1	0.4	0.6
	プラスチック類	ペットボトル	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1
		容器包装プラスチック	0.4	6.0	3.2	0.8	1.4	3.3	2.5
		製品プラスチック	5.9	20.3	37.0	27.6	26.0	6.4	20.5
		小計	6.3	26.4	40.3	28.4	27.4	9.8	23.1
	古布		0.0	0.1	0.2	0.5	0.1	0.2	0.2
	剪定枝		0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1
計		6.9	28.0	40.8	30.3	27.6	10.4	24.0	
不燃性資源物	缶		0.3	0.5	0.5	0.8	0.0	1.3	0.6
	びん		1.5	1.0	3.1	1.3	0.5	6.2	2.3
	金属類		34.1	6.4	12.8	11.5	14.2	11.6	15.1
	小型家電		32.6	10.1	3.2	5.3	17.7	0.0	11.5
	計		68.4	18.0	19.6	18.9	32.4	19.1	29.5
資源物計			75.3	46.0	60.4	49.2	60.0	29.5	53.5
資源化可能物	生ごみ		0.4	0.5	0.1	0.9	0.0	1.0	0.5
	紙おむつ		0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	靴・かばん・ベルト・ぬいぐるみ		1.8	12.5	0.0	4.4	5.3	0.5	4.1
	陶磁器		11.0	6.8	10.7	9.0	18.0	27.6	13.9
	ガラス類		5.0	4.4	3.9	4.0	0.0	19.3	6.1
	計		18.2	25.3	14.7	18.3	23.3	48.4	24.8
資源化できない可燃ごみ			2.5	20.0	20.7	18.8	9.4	9.1	13.4
資源化できない不燃ごみ			3.2	6.5	2.4	2.3	5.8	11.6	5.3
有害ごみ・粗大ごみ・収集不適物			0.7	2.3	1.6	11.4	1.2	1.4	3.1